

思いっきり!!南河内いちごの取組事例集

南河内いちごの新規就農者育成やPRのために、南河内農の普及課では2025年度も様々な取組を実施しました!

①【南河内いちごフェスタ2026@ららぽーと堺を開催しました🍓】

昨年度に引き続き今年度もいちごフェスタを2月28日(土)に開催し、多くの府民の方に**南河内いちご**のPRができました。
皆さま、ご協力いただきありがとうございました!

②【南河内いちごと名所めぐりデジタル・スタンプラリーが開催中です!】

昨年度も好評だった、**南河内いちご**の直売所や飲食店をめぐるデジタルスタンプラリーが開催中です。今年度は、**南河内いちご**に関するスポットに加えて、各市町村の名所もスポットとなっています。期間は5月6日(水)までとなっております、スタンプ

【いちごフェスタの様子▲】を集めると、抽選で素敵な景品が当たりますのでぜひご参加ください。

③【大阪芸術大学での**南河内いちご**撮影会が開催されました!】

大阪芸術大学の写真学科と協力して、富田林市内のほ場で、撮影会を行いました!撮影前には学生に向けて**南河内いちご**の特徴をしっかりお伝えし、光の加減や背景もこだわり抜かれた構図で、**南河内いちご**の魅力を最大限に引き出した写真を撮影していただきました。撮影した写真はいちごフェスタの際に放映した**南河内いちご**PR動画に使用しました。



【撮影会の様子▲】

④【いちごアカデミーと富田林市きらめき農業塾でコラボ講義実施】

平成30年度からいちごに特化した新規就農者確保の取組である「いちごアカデミー」を実施しています。今年度は富田林市内の農家が主体となって運営する「富田林市きらめき農業塾」と3度合同授業を実施し、当事務所からは「大阪府の農業について」の講義や「就農計画の書き方」に関するグループワークを行いました。受講生からは「品目によって計画の立て方が異なるため、様々な人と一緒に営農計画を考える機会は良かった」といった声が寄せられ、双方にとって有意義な取組となりました。



【コラボ講義の様子▲】

受賞おめでとうございます!!『農山漁村女性活躍表彰』

3月3日、The Place of Tokyoにて『農山漁村女性活躍表彰表彰式』が開催され、女性優良ビジネス部門において、富田林市の乾裕佳さんが『農林水産大臣賞』を受賞されました。

乾さんは日頃から人材育成や労働環境の改善に積極的に取り組み、「乾さんの千両なす」や「富田林の海老芋」のような地域特産品のブランド化にも大きく貢献されました。今回の受賞はこれまでの努力と成果が高く評価されたものです。

今後もさらなる活躍が期待されます。
本当におめでとうございます!



【素敵な笑顔の乾さん▲】



令和8年3月

南河内農と緑の総合事務所

農の普及課 発行

思いっきり！！南河内 果樹栽培情報

南果連だより



南河内フルーツ

松原市、藤井寺市、羽曳野市、富田林市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

いちじくを守る



株枯れ病の予防について

いちじくの株枯病は防除が難しく、病原となるカビが樹体に侵入すると、葉の萎縮や落葉が進み、最終的には樹全体が枯死します。感染は主に土壌を介して広がり株枯病が発病した園では病原菌が土壌中に長期間残存し、感染をした樹を植え替えても新植した樹が発病することが多くあります。また、アイノキクイムシによる虫媒伝染も確認されています。

全国の産地で被害が報告されており、南河内地域でも羽曳野市や河南町のいちじく園で発生が認められています。

防除対策には、客土などの物理的改善や農薬による土壌灌注といった手法に加えて、抵抗性台木の利用が効果的です。特に「**励広台1号**」は農研機構と広島県が育成した極めて強い抵抗性を持つ台木で、2020年に品種登録され、その実用化が進んでいます。「**励広台1号**」を台木にした柵井ドーフィンの接木苗は、種苗会社から入手可能となっています。

しかしながら、抵抗性台木を使用しても、土や雨水の跳ね返り、汚染された剪定ばさみなどの道具類、さらにアイノキクイムシを介した穂木への感染には引き続き注意が必要です。



【アイノキクイムシの写真】



【株枯れ病を発病した幹】

何事もはじめが肝心！！モモの総合防除

3月はせん孔細菌病の伝染が始まる時期です。昨年から越冬したせん孔細菌が気温の上昇とともに「**春型枝病斑**」として発症します。せん孔細菌病は、薬剤だけでは防除が難しいため、耕種的防除(病害虫の発生を抑制するために環境を整える方法)と薬剤散布を組み合わせた総合防除が重要になってきます。

まずは、耕種的防除として枝が黒ずみ、健全な芽が出てこない結果母枝(右写真)の除去を徹底しましょう。また、発病した葉や枝から盛んに二次伝染を繰り返すため、放置せず必ず園外に持ち出し処分することで予防を十分に行いましょう。

加えて、新葉・果実への感染を防ぐために、開花前の3月下旬にICボルドー412を必ず散布しましょう(下記表参照)。



(写真)せん孔細菌病を発病した枝

散布時期	対象病害虫	薬剤	希釈倍率	備考
開花前	せん孔細菌病 縮葉病	ICボルドー412	30倍	昨年発症が多かった園では必ず散布する

